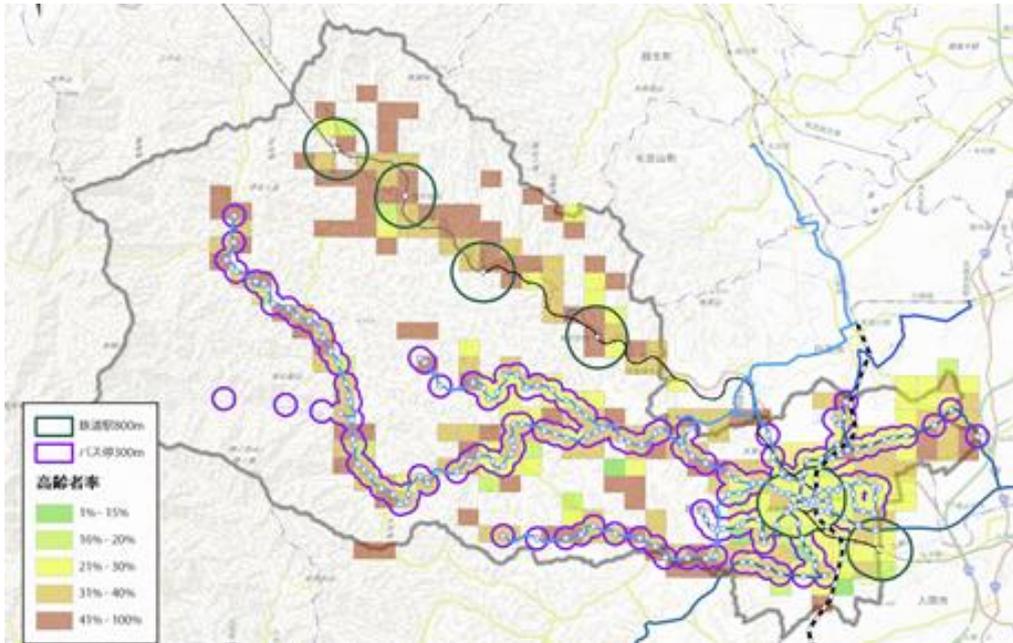


# 各地区における「暮らしやすい地域の移動・交通」の現状について

## 1 市内の公共交通のカバー状況 (H29.3月時点)

下図は、バス停から 300m、鉄道駅から 800mの範囲における人口カバー状況を整理したものである。市内には、鉄道は通っていても鉄道駅までが遠い地域、また、路線バスの運行が極めて少ない地域など、公共交通の不十分な地域の存在が確認できます。

図：高齢者（65歳以上）の割合と公共交通



## 2 公共交通のカバー状況から見える各地区の課題 (H29.3月時点)

- ①吾野、東吾野地区：地区内に鉄道駅はあるものの、鉄道駅から遠い地域が存在する。
  - ②原市場、南高麗、第二区地区：路線バスが運行されているものの、バス停から遠い地域が存在する。
  - ③精明地区：路線バスが運行されているものの、運行本数が極めて少ない（土休日 1 本）。
- 加治地区：鉄道駅と鉄道駅の間、バス路線とバス路線の間の地域が公共交通の不十分な地域となっている。



## ①吾野・東吾野地区の現状

課題：地区内に鉄道駅はあるものの、鉄道駅から遠い地域が存在する。

⇒従来の地域住民のたすけあいに加え、地区内の社会資源の活用、公共交通空白地有償運送により移動手段が確保された。今後は取組が持続するよう、ドライバー確保や安全対策などが必要となる。

## 吾野・東吾野地区で利用できる移動手段

### ■茶の間（サロン）・買い物ツアーに参加したい！

#### たすけあいがの「らくだ号」

- 対象者**：同意書を提出した方（吾野地区のみ）  
**利用日**：「茶の間」「買い物ツアー」開催日  
**行き先**：「茶の間」開催場所、  
 市内及び近隣市の商業施設  
**利用料金**：茶の間への送迎・・・無料  
 買い物ツアー・・・参加費 200 円  
**利用方法**：予約制  
**受付期間**：利用日の 1 か月前～3 日前  
**受付日**：月・水・金 午後 1～3 時  
**実施主体**：たすけあいがの（福祉の推進組織）  
**ドライバー**：地域住民による無償ボランティア



### ■通院、買い物、金融機関など個人の用事に使いたい！

#### 奥武蔵らくらく交通「ラクタク」 （公共交通空白地有償運送）

- 対象者**：吾野、東吾野地区に在住、在勤していて  
 利用登録された方  
**利用日**：毎週火、木、金曜日（その他は応相談）  
**行き先**：地区内、飯能市内  
 ※吾野、東吾野地区以外での乗車不可  
**利用料金**：3 km未滿 500 円  
 以降 1 kmごとに 100 円加算  
**運行時間**：午前 8 時から午後 6 時まで  
**利用方法**：利用日前日までの予約制  
**実施主体**：NPO 法人奥武蔵グリーンリゾート  
**ドライバー**：国土交通大臣が認定する講習修了者



### ■スクールバスに相乗りしたい！

#### 奥武蔵小学校スクールバス混乗制度

- 対象者**：吾野・東吾野地区在住・在勤していて  
 利用登録された方  
**利用日**：スクールバスの運行日  
**乗降場所**：奥武蔵小学校児童の乗降場所  
**利用料金**：無料  
**利用方法**：バス運行時間に決められた停留所で乗車  
**実施主体**：飯能市  
**運行**：国際興業(株)（市教育委員会から受託）  
 ※貸切運行



### ■総合福祉センターを利用したい！

#### 総合福祉センター送迎バス

- 対象者**：18 歳未滿の児童（保護者同伴）、  
 60 歳以上の方、障害のある方  
**利用日**：吾野地区・・・毎週火曜日  
 東吾野地区・・・毎週金曜日  
**行き先**：飯能市総合福祉センター  
**利用料金**：無料  
**利用方法**：停留所付近で手を挙げて乗車  
**実施主体**：飯能市社会福祉協議会（指定管理者）  
**運行**：(株)東栄自動車（社会福祉協議会から受託）  
 ※特定旅客運送



※東吾野地区では商品提供や地区内の見守りを目的とした「移動販売」事業が月 1 回実施されている。

## ②原市場・南高麗・第二区地区の現状

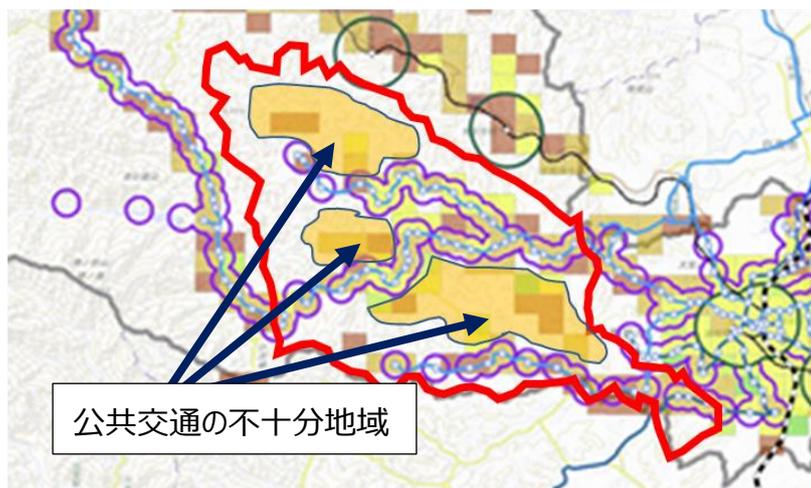
**課題：** 路線バスが運行されているものの、バス停から遠い地域が存在する。

概ねバス停から 300mの円に人口分布が収まっているものの、円から外れた公共交通の不十分な地域が点在している。また、それらの地域では高齢化が進み、路線バスと競合しない地区内の小さな移動手段の導入が期待されている。

現在、市直営の原市場、南高麗の両福祉センターでは、団体利用者等の登録者に限り、自宅と福祉センター間の送迎を地域住民の有償ボランティアにより実施し

ている。この車両を活用し、3 地区内の公共交通の不十分な地域からバス停、又は地域拠点までの移動手段を確保することで、福祉センターの利用や路線バスの利用につながると考える。

また、両福祉センターの送迎車両の有償ボランティア（ドライバー）を含む関係者との意見交換を行い、送迎サービスの利用者がバス停や地域拠点までの移動ニーズがあるとのことであった。今後、地域住民とともにドライバーの確保や育成、安全対策などの課題を解決し、実証運行に向けて検討を進めていく。



## ③精明・加治地区の現状

**課題：**

精明地区 路線バスが運行されているものの、運行本数が極めて少ない（土休日 1 本）。

加治地区 鉄道駅と鉄道駅の間、バス路線とバス路線の間の地域が公共交通の不十分な地域となっている。

両地区には路線バスが運行し、タクシーの営業所はあるが、路線バスの運行本数が少なく、商業施設や病院までの距離があるなど、高齢者等のおでかけに支障がある地区となっている。公共交通と競合しない移動手段の導入が課題となっているため、それぞれの地区の特性を踏まえ、社会資源の活用も視野に入れた新たな移動手段の検討を進める必要がある。

今後、具体的な実施方法について、地域住民とニーズ把握を行うとともに、利用される移動手段となるよう運行方法、運行回数など検討を進める。

